

国語 第4学年 理由や例を挙げて、考えを書こう 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校の国語の授業づくりを手伝う役です。この後に続く「もしものときにそなえよう（第4学年）」の学習指導案を、私の学級に合わせて直してください。

先に、次の五つを一つずつ質問し、私の答えを待ってから次の質問に進んでください。まとめて聞かないでください。

一、学級の人数と、ペアやグループの組み方。

二、既習のこと。第3学年で考えと理由を挙げて書く学習をしたか。引用の仕方や出典の書き方をどこまで学習してきたか。社会科で自然災害の学習が済んでいるか。

三、調べる材料。学校図書館にある防災の本、市町のハザードマップや防災の手引き、地域で過去にあった災害の資料など、使える物は何か。災害でつらい経験をした子がいるか。

四、この学級の子どもの実態と、この単元に使える時間数、研究授業にする時間（何時間目か）。

五、使える道具。一人一台の端末でインターネットを使って調べられるか、大型画面があるか、紙だけか。

五つの答えがそろったら、学習指導案を次の決まりで直してください。

学習指導要領の文言、評価規準の文言と文末（「～している」「～しようとしている」）は変えない。

教科書の作例は引用しない。本時で比べる二つの文章は、私が答えた調べる材料に合わせて作り直す。

時間数は私が答えた数に合わせ、削ったり足したりした時間がどれかを一覧にする。

本時の展開は、人数と道具に合わせて、活動の形（一人・ペア・グループ・全体）と使う物を書き直す。

つまりきへの手当ては、私が答えた実態に合わせて具体的に書き直す。つらい経験をした子がいる場合の配慮も書く。

直した所の一覧を最後に付け、どの答えを根拠に直したかを一行ずつ書く。

文章は先生がそのまま使える言い方にし、比喻や決まり文句を使わない。

出力は、学習指導案と同じ見出しの順で全文を出してください。

直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

———ここから直す対象の学習指導案———

第4学年 国語科学習指導案

1 単元名「理由や例を挙げて、考えを書こう」 教材名「もしものときにそなえよう」

2 単元の目標

考えと理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係が分かり、引用の仕方や出典の示し方を知って使う（(2)ア・イ）。相手や目的を意識して、調べたことから書くことを選び、自分の考えと理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫する（B(1)ア・ウ）。言葉がもつよさに気付き、調べて考えたことを進んで伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）

〔知識・技能〕②引用の仕方や出典の示し方を理解し使っている。（(2)イ）

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①理由や事例が自分の考えに合っているかを粘り強く確かめ、学習の見通しをもって、調べて考えたことを文章に書こうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

本単元は、大雨・台風・地震・津波などの自然災害への備えについて調べ、理由や事例を挙げて自分の考えを書く書くことの単元である。学習指導要領第3学年及び第4学年のB(1)ウと、〔知識及び技能〕(2)アを中心に指

導する。二つとも、自分の考えと、それを裏付ける理由や事例との関係を扱う事項である。言語活動はB(2)ア「調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動」に当たる。本や資料から調べたことを書くので、引用の仕方や出典の示し方((2)イ)も合わせて扱う。

第3学年では、考えと理由の関係を学んで((2)ア)、町のよいところを紹介する文章を書いている。本単位では、理由に加えて、理由を裏付ける事例を調べて選び、考え・理由・事例の関係が読む人に分かるように書く。第5学年及び第6学年では、事実と感想、意見とを区別して書くこと(B(1)ウ)へと進む。社会科の第4学年で学ぶ「自然災害から人々を守る活動」とも関連付けられ、地域の防災の資料(市町のハザードマップや防災の手引きなど)を調べる材料にできる。

(2) 児童について(学級の実態を書く)

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、調べたことはカードに一枚一つずつ書かせ、本の題名や資料を作った所を必ず書き添えさせる。カードを動かして仲間分けし、考え・理由・事例の関係を目に見える形にする((2)ア・イ)。それから、書く前に組み立てメモで理由と事例を矢印で結ばせ、ペアで「この事例でどうして納得できるか」を確かめ合わせる(B(1)ウ)。そして、災害の話題では、怖さを強めることより、自分や家族ができる備えに目を向けさせる。家での備えを話題にする時は、子どもが話したくないことを聞き出さない。

書いた文章は、考え・理由・事例が段落に分かれ、事例が理由を裏付けている物を「おおむね満足できる」状況、複数の事例を比べたり、調べたことと自分の経験を結び付けたりして考えを裏付けている物を「十分満足できる」状況の目安にする。

5 指導と評価の計画(全10時間)

第1次 第1時: ○自然災害(大雨・台風・地震・津波など)への備えについて、知っていることや家でしていることを出し合う。○学習課題「理由や事例を挙げて、もしもの時の備えについての考えを書こう」を立て、学習計画を立てる。 評価: 態①(発言・ノート)

第2次 第2時: ○大きなテーマを一つ選び、その中で詳しく知りたいことを決める。○調べる物(本・事典・市町のハザードマップや防災の手引き・インターネット)を確かめる。

第2次 第3時: ○本や資料、インターネットで調べて、一枚に一つずつカードに書く。カードには本の題名や資料を作った所を書く。 評価: 知②(調べたカード)

第2次 第4時: ○カードを仲間分けし、「もしもの時に備えて、…が大切だ」という自分の考えを決める。○考えの理由と、理由を裏付ける事例をカードから選ぶ。 評価: 知①(カードの仲間分け・ノート)

第2次 第5時: ○文章の例(先生が教科書から示す)を読み、考え・理由・事例がどこに、どんな言葉で書かれているかを見付ける。 評価: 知①(ノート)

第2次 第6時: ○組み立てメモを作る(初め=自分の考え、中=理由と事例、終わり=まとめと考え)。

第2次 第7時(本時): ○組み立てメモの理由と事例が考えに合っているかをペアで確かめて直し、中の段落を書く。 評価: 思①(組み立てメモ・下書き)

第2次 第8時: ○初めと終わりの段落を書き、文章を仕上げる。本の言葉をそのまま使った所はかぎ(「」)で示し、最後に参考にした本や資料を書く。 評価: 知②(文章) 思①(文章)

第2次 第9時: ○書いた文章を読み返し、理由と事例のつながりや、字や言葉の間違いを確かめて整える。 評価: 態①(読み返しの記録)

第3次 第10時: ○文章を読み合い、理由や事例の挙げ方について感想を伝え合う。○学習を振り返る。 評価: 態①(振り返り)

6 本時の指導(7/10)

(1) 本時の目標

組み立てメモの理由と事例が自分の考えに合っているかを確かめて直し、考えと理由や事例との関係が分かるように中の段落を書ける。(B(1)ウ)

(2) 学習過程

【導入】

学習活動: 1 前時に作った組み立てメモを見て、自分の考えを一文で言う。

2 先生が作った二つの短い文章を比べる。

○「AとBでは、どちらの文章の考えに納得できますか。それはなぜですか」

【めあて】理由や事例が考えに合っているかを確かめて、中の段落を書こう。

予想される児童の反応：・Aは、理由の後に本当にあったことが書いてあるので納得できる。

・Bは、例が考えと関係のない話なので、どうしてそう言えるのか分からない。

指導上の留意点：・二つの文章は同じ考え（例：ひなんする場所を家族で決めておくことが大切だ）で、Aは理由に合う事例、Bは理由と関係の薄い事例を挙げた物を先生が作る。教科書の文章の例は使わない。

・違いが言えない子には、事例の文に線を引かせ、「この例は、どの理由に合っているか」と聞く。

【展開】

学習活動：3 自分の組み立てメモを見直す。

○「あなたの事例は、どの理由に合っていますか。矢印で結んでみましょう」

4 ペアで組み立てメモを読み合い、理由と事例のつながりを確かめ合う。

○「この事例があると、どうして考えに納得できますか」

5 確かめたことを基に組み立てメモを直し、中の段落を書く。

（つなぐ言葉）「その理由は」「例えば」「このことから」

予想される児童の反応：・理由一の「水や食べ物を用意しておく」には、調べたカードの、ひなんした時に水が足りなくて困った人の話が合う。

・理由二に合う事例が見付からないので、カードをもう一度見る。

・ペアに「その例は理由二より理由一に合う」と言われたので入れかえた。

・調べたことを全部書こうとしていたが、考えに関係のある所だけにした。

指導上の留意点：・組み立てメモの理由と事例の間に矢印をかかせ、結べない所に印を付けさせる。

・ペアでは、聞く側が「この例でどうして納得できるか」を一つ質問する決まりにする。

・事例が足りない子は、第3時のカードに戻って選び直させる。カードに無い時は次時まで調べ足す。

・書くのが苦手な子には、つなぐ言葉を入れた中の段落の型を渡す。

・調べた本の言葉をそのまま使った所は、かぎ（「」）で示すことを確かめる（(2)イ）。

・端末で組み立てメモを作っている場合は、付箋を動かして理由と事例の組を作り直させる。

・早く書き終えた子には、事例を二つ挙げて比べる書き方を考えさせる。

【まとめ】

学習活動：6 書いた中の段落を読み返し、理由と事例が考えに合っているかを確かめる。

7 二、三人の段落を紹介し、事例の挙げ方のよい所を確かめる。

8 振り返りを書く。

予想される児童の反応：・事例を一つ入れかえたら、考えがはっきりした。

・「例えば」の後に、調べたことを短く書くと分かりやすい。

指導上の留意点：・紹介では、事例が理由を裏付けている所に線を引いて見せる。

・振り返りは「理由と事例を結ぶために直した所」「次の時間に書くこと」の二つで書かせる。

・次時は初めと終わりの段落を書き、参考にした本や資料を書くことを伝える。

評価：思① 考えと理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（組み立てメモ・下書き）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に日付、題名、めあて。その左に、先生が作った二つの文章A・Bを拡大して並べて貼り、考え・理由・事例に色の違う線を引く。Aは理由と事例の間に矢印をかき、Bには結べない所に印を付ける。中央に、文章の組み立て（初め＝考え、中＝理由と事例、終わり＝まとめ）を三つの枠で右から順に示し、中の枠の中で理由と事例を矢印で結んだ形をかく。その左に、つなぐ言葉（その理由は・例えば・このことから）の短冊と、子どもが直した例。左端に、確かめの問い「この事例は、どの理由に合っているか」と、振り返りの観点二つ。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

